

それゆけ！ としよかんだより



2010年4月

第36号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

古典籍逍遙

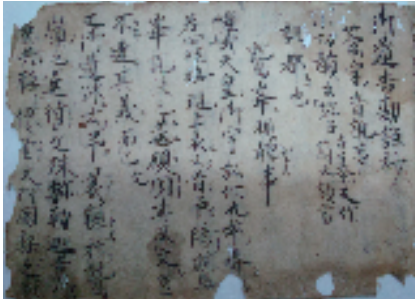
【第三回】

図書館長：武内孝善

尚祚撰『御遺告勸註抄』一帖

【書誌データ】

綴葉装、一帖、永仁四年（1296）写
たて15.8センチ よこ22.8センチ
無界、楮紙、半丁十三～十四行
墨付四四紙、表紙とも四五紙、共紙表紙



今回は、古来、弘法大師空海(以下、大師と略称す)の遺言状とみなされてきた『遺告二十五ヶ条』のもっとも古い注釈書である尚祚(?～1245)の撰述になる『御遺告勸註抄』一帖をとりあげます。(図版は1丁表)

大師は高野山でご閉眼になられる一週間前の承和二年(835)三月十五日、諸弟子に対してさいごの遺誡をなさいました。このときの遺言の内容が、『御遺告』と略称される『遺告二十五ヶ条』であるとみなされてきました。しかし今日、『御遺告』は大師の真撰ではないとする説が有力です①文章がきわめて稚拙であること、②全体が不統一であって一度に書かれたとは考えがたいこと、などから一が、初期の真言宗教団の歴史を考えるときの根本史料の一つであることはまちがいありません。

古来、この『御遺告勸註抄』は、平安末から鎌倉時代にかけて高野山において教学が重視されるなかで輩出した学僧・四哲の一人である尚祚の撰述とみなされています。尚祚の人となりについては、早くに覚海の門に入って密教の蘊奥を究めたこと、高野に心南院を建てて住したこと、著書に『初学大要鈔』『高野興廃記』『壇上巡礼記』などがあること、が知られるに過ぎません。

『御遺告勸註抄』は、伝存する『御遺告』の注釈書のなか、もっとも古いものです。記録の上では、仁海に『御遺告鈔』なる注釈書があったようですが、残念ながら今日その所在は確認されていません。本書では、『御遺告』のなかから七十八の語句を取りだして、その訓みおよび内容の説明・解釈を行っております。本書は、鎌倉時代の高野山で『御遺告』がいかなる位置を占めていたのか、いかに受容されていたのか、を知りうる史料としても、きわめて注目される著書といえます。

この写本は、文永十年(1273)九月十一日に高野山で一校された本を手本として、永仁四年(1296)五月に書写されたことが奥書からわかります。ただ残念なことは、裏表紙が損滅しているため、どこで・誰が書写したかについての記録が不明な点です。とはいえ、この写本は現存する写本のなか、最古のものであります。

この写本の特色の第一は、書写年代がとびきり古いことです。従来知られていた写本は、すべて江戸時代に書写されたものばかりでした。たとえば、①高野山三宝院本は寛延元年(1748)の、②真別所本は明和元年(1764)の写本ですから、一気に四百五十年あまりさかのぼることになります。

第二の特色は、書写年代がとびきり古いことから、本書を研究していく上での史料価値が計り知れないことです。つまり、原本の形をよく伝えていられると考えられることです。たとえば、「他有眼青事」(『続真言宗全書』第二十六 21頁)において、活字本は「蜀志馬良」以下をすべて二行割注とするけれども、この写本では「蜀志」から「時人」までの二十一字だけを割注としています。

第三は、訓点(かな・返り点・声点)が丁寧に付されていることです。これらの訓点は、書写と同じときに付されたものであり、『御遺告』の本文を読み進むうえでも参考となりうると思われまます。

一つの写本に込められた情報をすべて理解するには莫大な労力と時間を要しますが、読み終えたときの達成感は格別です。恐れないで、写本を手にとってみることから始めてみてください。



ご卒業おめでとうございます

大学図書館は同窓生や学外の方々にも利用可能です。
ただし、利用するには、手続きが必要です。

図書館利用手続き

図書館をご利用なさりたい方には
「高野山大学図書館利用願」
を書いていただきます
図書の出借を希望する方は年間登録を「希望する」に○をしてください
年間登録を希望しない方は閲覧のみの利用です

年間登録する場合

- 免許証など身分を証明できるものを提示願います。
- 有効期間は年度更新のため、登録した日からその年度末の3月31日までです。
- 図書を貸出できるのは5冊までです。
貸出期間は
同窓生・・・3週間
学外者・・・1週間

《3月・4月の開館予定表&今月の…ぴか!》

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

	9:00-18:00		13:00-18:00
	9:00-17:00		13:00-17:00
	9:00-12:00		閉館
	9:30-16:30		13:00-16:30

切り取り

今月の…ぴか!



雛祭り

今日の雛祭りは女の子のお祭りとしての印象が強いですが、昔はそうでもありませんでした。

昔の雛祭りは信仰行事としての意味合いが強く、上巳の節供で川に流す「流し雛」や神社に納める「納め雛」の行事として残っています。この行事には男女関係なく行なわれていました。これに使われる雛人形は土人形や紙などで作った簡素な人形です。

雛人形の「雛」の意味は、人間になぞらえた模型という意味です。この行事の目的は、人の心身にたまった穢れを雛人形に移すことで、穢れを払ういわば禊や払いの要素が含まれています。

※参考にした資料は、
今野圓輔『季節のまつり』
(河出書房新社 1976年8月刊)です
興味をお持ちの方は、どうぞご覧下さい。



(編集後記)

あっという間に2月も過ぎ去り、とうとう3月に突入しました。年度末のこの月は、何かと忙しい日々が続きます。寒の戻りもありますので、体調を崩さないようにしたいものです。(吉)

発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町高野山38
5高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835
Fax:0736-56-5590
E-mail
service-lib@koyasan-u.ac.jp